

# 令和2年度 消費者支援功労者表彰受賞者の声

## ●個人（五十音順・敬称略）

### 内閣総理大臣表彰

#### 埼玉県地域婦人会連合会会長 柿沼 トミ子



この度は、消費者支援功労者内閣総理大臣表彰の栄誉を賜り、感激でいっぱいです。誠に有難うございました。早速、賞状と盾を手にも、大野埼玉県知事に御報告に伺いました。

大野知事には、改めて消費者行政に力を入れていただけることにもなりました。

今回の受賞も、皆と共に力を合わせて、地道に展開してまいりました活動があってこそと存じます。特に私の町長時代に力を貸していただいた消費者団体関係者の方に共に喜んでいただけたことは、年月を経過しているだけに、感無量です。「みんなの仕事の励みになりますね」と、笑顔を交わし合いました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、特に高齢者は家に籠もりがちです。詐欺も横行しています。今後も、地域ネットワークの重要性に鑑み、若人の自覚を高め、より良い「消費者市民社会」構築のため、一層頑張ってまいりたいと存じます。

#### 札幌国際大学短期大学部名誉教授 白川 智洋

この度は「令和2年消費者支援功労者」として、本制度筆頭の「内閣総理大臣表彰」の栄誉に浴し、身に余る光栄と存じております。

荘厳な表彰状と表彰盾に加え、内閣府特命担当衛藤晟一大臣からお祝いのお言葉まで頂戴し感激いたしております。

推挙団体の日本消費者教育学会にとりましても今回の受賞は栄誉であると喜んでくださっております。

顧みますと、学会創設に関わり、以来今日まで約40年にわたり、斯学の発展と北海道や札幌市などの地方消費者行政の推進や消費者支援等に微力ながら貢献できたことが評価されたものと自負しております。

今回の受賞を契機に、老体ながら「新しい生活様式」の消費生活の維持・推進に少しでも寄与できるよう頑張りたいと願いたします。



#### サステナビリティ消費者会議代表 古谷 由紀子



消費者支援功労者表彰の受賞を機に、改めて消費者利益の擁護について考えてみたいと思います。

世界の新型コロナウイルス感染症の拡大は経済や社会に大きな打撃を与え、消費者利益の擁護も難しい局面に立たされることもまれではありません。例えば、感染症の防止は個人の安全を守ることであり、そのために人々の行動の追跡などプライバシーを犠牲にせざるを得ないとの声も聞こえてきます。

しかし、安易に結論を出してはいけないことは言うまでもありません。安全もプライバシーも、どちらも尊重すべき方策はないのかなど、Withコロナ時代の消費者利益をどう守っていくのか、これまでの常識にとらわれず、より良い未来のために、考えていきたいと思つた。

## ● 団体 (五十音順・敬称略)

### 内閣総理大臣表彰

#### 京都市子ども保健医療相談・事故防止センター (京あんしんこども館)

「京(みやこ)あんしんこども館」は京都市が平成16年8月に設立し、京都第二赤十字病院に運営を委託しています。医療現場で子どもの事故をみてきた歴代センター長(能勢修、澤田淳、大矢紀昭)を先頭に下記事業を実施してきました。  
①子どもの不慮の事故を防ぐためのモデルルームを活用した啓発活動②子育て中の保護者、支援者等を対象にした研修会、講習会及び出張講座等の実施③小児科医師、保健師、看護師による「子どもの保健医療相談」の実施④子どもの事故情報の収集・分析・提供

以上、子どもの事故防止活動に関する専門施設としての活動が評価されたことを、スタッフ一同心より光栄に存じます。

少子化が加速化し育児環境も変化する中で子育てに不安を強めている保護者も多く、今後も事故を予防する具体的な予防策を伝えるとともに、安全・安心の子育て支援を進めていきたいと思っております。

## 福島県ネットワーク・セキュリティ連絡協議会

栄えある表彰を賜りましたことは、大きな喜びであり、会員、事務局を代表し厚く御礼申し上げます。20年にわたり、サイバー犯罪に関し消費者の安全・安心を確保するための啓蒙活動を、行政・治安・学術等各機関と事業者が、それぞれの強みを生かし連携し推進してまいりました。

今後、コロナ禍による社会変革に伴いICT化が更に進む中で、サイバー犯罪の増加が懸念されることから、本協議会の枠組みを活用した消費者に対するタイムリーな情報発信、情報共有を行うなど、更に活動を強化し被害の抑止に努めてまいります。



### 消費者ベストサポーター章

(青年部門) ※敬称略

#### 落語家 小田中 裕士

落語家の立川がじら(本名:小田中裕士)です。この度は令和2年度ベスト消費者サポーター章を頂きました。

落語というものは、究極の一人芸とも言われる一つの話芸ですが、江戸以来の伝統に裏打ちされた形式を備え現在まで広く受け入れられてきました。私も研さんの日々を送る身ですが、御縁があり消費者問題の啓発事業に関わり、話芸という特殊な形で多くの方々にお伝えし続け今日に至ります。笑いを含む身近な題材から、暮らしの中に潜む危険への警鐘まで扱うことは大変に難しいことではありますが、やっと独自の方法が見えてきたところです。今後より一層、芸とともに内容の発展を御期待いただけますと幸いです。

